

# 分苑たより なごみ

大本  
名古屋分苑

## 分苑長 文月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

キーエルヴィファルタス

ご機嫌いかがでしょうか。

文月の月次祭に大勢の方達

が、ご参拝して頂き誠にあり

がとうございます。

沖縄県で梅雨明け宣言が発

令された後、全国各地で大雨

特に、九州全域・山口県から

山陰地方島根・鳥取と日本海

側を北上して北陸・秋田でも

また世界各地でも大雨の被害

が出ています。

この度、教主生誕祭より世

界平安安全祈願祝詞の内容が

変更になり、祝詞を奏上して

いても現状の状態をそのまま

に大神様に祈願をさせて頂い

ています。

先月二十四日・二十五日と

教本三級認定講習会を開催い

たしました

受講者の方は、十一名で未  
信徒の方も二名参加していた  
できました。

また二日間昼食作りと午後  
のお茶の接待に携わって頂い  
た直心会の方達には、とても  
感謝いたします。

ありがとうございます。  
今日は、皆様に報告するこ  
とが二件あります。

一件目は、六月二十日をも  
って半田支部が解散になり、  
今後は半田会合所になります。

会合所の設立日は八月号の大  
本誌に掲載されます。

二件目は、七月二日に名古屋

屋分苑で東海教区総代の推薦  
会議があり、参加者全員が野  
田篤史様を推挙され来季も東

海教区総代としてお願いする  
ことになり野田さんも快諾し

ていただきました。

先の大雨の中で山陰地方、

特に鳥取で因幡いなばの白うさぎの  
神話があり一匹の白うさぎが

隠岐の島から因幡鳥取県へ鰐  
を橋代わりにして渡り、渡り  
終えた後で、鰐をけなした為、  
鰐から毛をむしり取られ悪神  
様には、傷を治すには、海水  
に浸れば治ると言われ、海  
水に浸かったとたん痛みに耐  
えず、泣いていたところに、

大国主命様が通りかかり、哀  
れと思召おぼしめして種々いろいろと教えられ  
たと古事記にもある。鳥取県

下には白兔神社といって白兔  
を祀った宮まであるが、この  
兔というのはその人の名前で

あつて、馬とか鹿という名前  
があるように、白兔という名

前をもった人である。すなわ  
ちその一族は隠岐の島から渡

ってきた小民族の一団であつ  
て、中の酋長しゅうちょうが白兔という名

前を持っていたのである。そ  
れが海の鰐、(鰐とは当時の

海上を根拠としていた民族)  
を欺き一切の略奪に遭ったの

で思い泣き悲しんでいた。

玉鏡に書かれていましたの

で、出雲で育った私には、聖  
師様の書物を読むまで本當の

兔と鰐の事ばかりだと思つて

いました。

愛知県の梅雨明け宣言は、  
まだ発令されていませんが、  
これからは日中の気温が上昇

し、熱帯夜となります。水分  
補給を十分にして頂き、体調

管理に気を付けて下さい。

本部の夏の祭典、

瑞生大祭が近づい

て来ました。預か

り玉串は本部へ持

参らせて頂きます

ので宜しくお願

いたします。

本日の参拝誠にありがとう

ございました。

コーランダンコン

### 行事報告

#### ●月始祭

七月一日(土)

参拝者 二十一名

斎主 堀 宜雄

祭員 森 満政

進行 天野 芳幸

今月は初の試みとして、正

座の困難な信徒でも祭員にお  
仕えできるよう、椅子を使

つての庭上祭にて執行された。



●月次祭

七月十六日(日)

参拝者 二十九名

齋主 近藤 哲史

祭員 妹尾 正治

祭員 影近 博己

祭員 畠山 茂

裏方 青山 将士

典礼 小林 清人

伶人 飯田 直美

伶人 佐古 美鈴

伶人 長谷川 美枝

進行 伊藤 秀子

祭典終了後、森明人氏による一寸良いお話「ストレスの対処法、クエン酸・重曹の効能について」を聴講した。



●教本三級 認定講習会

六月二十四・二十五

日の両日、講師を芝田豊海、三河本苑特任宣伝使・堀宜雄、名古屋分苑特任宣伝使にお願いでして名古屋分苑を会場に開催された。

受講者の方々は非常に熱心に取り組み、最後に理解度チェックで筆記試験・対話実習を行い、充実した講習となった。

参加者十一名(三河本苑一名、三重主会二名)



行事予定

八月二十日(日)

月次祭 午前十時半より

九月二日(土)

月始祭 午後一時半より

言葉の力 その⑩

特任宣伝使 妹尾 正治

突然だが、人の悩みはどこから湧いてくるのだろうか？

昨日まで何とも感じなかった事が一夜明けると深い悩みとなつて暗い谷底に落ちていくような気分になつてしまうことがある。

人の助けで解決するような悩みなら軽症で済むが、自力で浮かび上がらなくてはいけないとなると、かなりの重症で神様に頼るしか術はない、まさに「苦しい時の神頼み」である。

自分は幾度この「苦しい時の神頼み」で救われたかしかない、だが漠然と神頼みしていたわけではない、精一杯考へて精一杯努力した挙句に自力では道が開けなかつた時だけである。

これは何度か体験するうちに、自分には「神様が寄り添っていて下さる」と勝手に思えるようになって、最近では、難題・悩みが苦悩からそれを乗り越える快楽に代わって来ている。

コロナ禍・気候変動・政情不安・経済危機・・・悩みの種でイッパイのご時世にあつて「苦しい時の神頼み」の出番が増してきているように感じる。

先日の新聞のコラムに、若き日のドライ・ラマの言葉が引用されていた、『答えのある問題なら悩む必要はありません。答えのない悩みなら悩んでもむだです』

これが、悩んだ末の「神頼み」の真の答えかもしれない。嗚呼！惟神靈幸倍ませ

一、わが心 救いの神に任す  
うへは 今も神国の幸に住むなり

二、悩むとき 疲れしをりも  
皇神の 愛の御声にちから得にけり